



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年10月28日)

ポイント

▶先週(10/21-10/25)に更新されたデータで重要なのは、9月の貿易統計及び全国消費者物価指数である。これらのデータは純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。

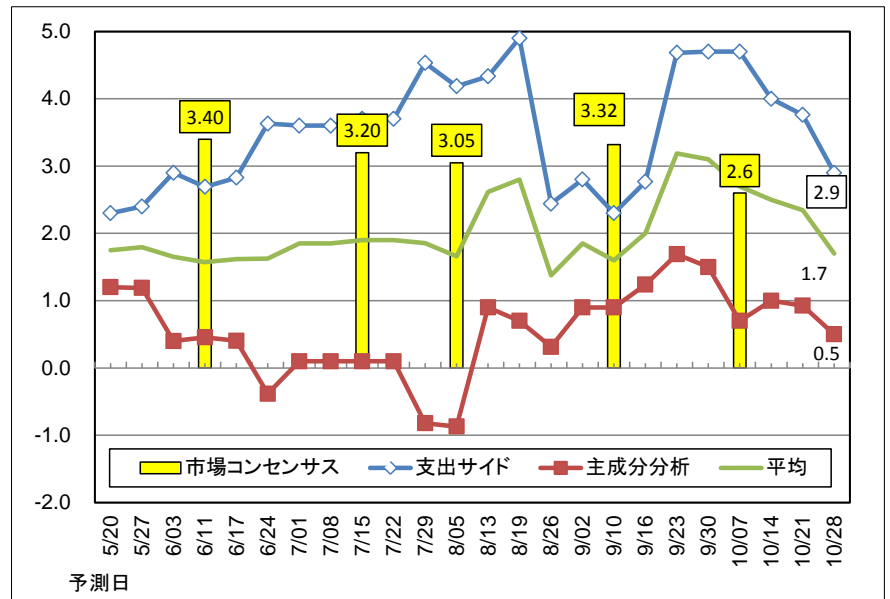
▶9月の全国消費者物価コア指数は前年比4ヵ月連続のプラス。消費者物価上昇の大部分をエネルギー価格上昇が説明している。

▶9月の貿易赤字(季節調整値)は前月比+33.0%と大幅拡大。2ヵ月ぶりのプラス。結果、7-9月期の貿易赤字は4-6月期から+30.8%拡大した。

▶今週の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比年率+2.9%と予測。今週は、純輸出の予測値が大幅下方修正されたため、先週(+3.8%)から下方修正。

▶9月の貿易統計は、7-9月期が4%台の高成長になるかの重要な指標である、と先週コメントした。実績は事前予測より下振れたため、同期の成長率の減速は不可避となった。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年7-9月期(%, 前期比年率換算)



<低調にとどまった9月貿易統計により、7-9月期実質GDP成長率は2%台に減速。>

先週(10/21-10/25)に更新されたデータは、9月の貿易統計、企業向けサービス価格指数、全国消費者物価指数、8月の全産業活動指数及び景気動向指数(改訂値)である。これらのデータは純輸出及び主要デフレータの予測に影響を与える。

9月の全国消費者物価コア指数は前年比+0.7%となった。4ヵ月連続のプラス。指数構成品目を見ると、エネルギー価格は同+7.4%上昇し、寄与度は+0.64%となった。消費者物価上昇の大部分をエネルギー価格上昇が説明している。全国消費者物価コア(食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く)指数は前年比横ばいとなり、2008年12月以来57ヵ月ぶりにマイナス領域から脱した。

9月の貿易収支は-9,321億円と15ヵ月連続の赤字となった。前年比+64.1%と貿易赤字の伸びは前月(+25.3%)から拡大した。季節調整値は-1.0913兆円と31ヵ月連続の赤字となり、前月比+33.0%拡大した。2ヵ月ぶりのプラス。結果、7-9月期の貿易赤字(年率-11.3812兆円)は4-6月期(同-8.7037兆円)から+30.8%拡大した。

新たに発表された月次指標を更新した今週(10/28)の超短期モデル(支出サイド)は、7-9月期の実質GDP成長率を前期比+0.7%、同年率+2.9%と予測する。今週は純輸出の予測値が大幅下方修正されたため、先週の予測(+3.8%)から下方修正となった。前期比寄与度ベースでは、国内需要は+1.0%ポイント、純輸出は-0.3%ポイントとなっている。先週は、9月の貿易統計は7-9月期実質GDPが4%台の高成長になるかの重要な指標である、とコメントした。結果、実績は事前予測より下振れたため、7-9月期の実質GDP成長率の4-6月期からの減速は不可避となった。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690